

平成30年度第1回いきがい応援セミナー
「還暦がスタート『なにわの町おこし』顛末記
～シニアでも町を変えることができる！～」



平成30年5月26日（土）、まちづくり協働センターで、大阪市内の商店街活性化に取り組む永田 賢次氏をお迎えし、還暦から挑戦した町おこしについて、事例とエピソードを交えて、お話をいただきました。



【九死に一生を得た話や商店街でのエピソードを話している永田さん】

【参加者の声】

- ・ イベントを行う場合お金がいるが、アイデアにより解決できることを感じました。
- ・ 簡単そうにお話をされたが、商店街の合意を得るのは難しかったのではないかと思いました。他では聞けないお話ありがとうございました。

次のような質疑応答がありました。

Q 失敗したことはありますか？
→いくつかは上手く行かない場合があります。

Q アイデアはどこから来るのですか？
→現場を訪問し、相手の気持ちをくみあげること、アイデアが自然と浮かんできます。

永田さんにとっては、「町おこし」は全く未経験の分野で、還暦がスタートでした。どのようにして永田さんは商店街の人々に受け入れられたのでしょうか？

それは、現場を何度も訪問するうちに、これまで培ってこられた畑違いの知恵が、相手の立場を考えたアイデアにつながり、商店街の人々に受け入れられたからです。自分のことをどんな人か捉えきれないように、まちのことはまちの人が一番分かっていない場合があります。また、シンプルに考えられる素人の発想はときには玄人をしのぎます。

放置自転車で困っていた商店街の事例では、それだけ多くの方が、荷物をたくさん運べる自転車で来ていることに着目。商店街の皆で整然と自転車をとめるように促すことで、自転車の持ち主が商店街に立ち寄るようになり、顧客に変えることができました。

シニアにとって、未経験の分野は今まで長い社会生活で身につけた知恵を活かせる分野でもあります。皆さんも自分の知恵を信じて、新しいことにチャレンジしてみませんか！



【お金を使わないアイデア満載のまちおこしの数々が参加者にとって新鮮でした】

（報告者：いきがい応援プラザ相談員 有馬）